

# 令和元年度 沼津情報・ビジネス専門学校 学校自己評価・関係者評価 評価報告書

## 1. 教育理念・教育目標 の確認

〈教育理念〉

社会に自立するために必要な人間力と高い専門技術を有する人材を育成し、地域社会に貢献する。

〈教育目標〉

学校教育法に基づき、工業における専門教育による人間性豊かで創造性に富んだ技術者の育成と、商業実務、衛生、教育・社会福祉における実務教育による知性高く教養深い有能な職業人や教育者の育成を通して、地域社会の発展に寄与することを目標とする。

## 2. 令和元年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画 の確認

- ① 入学定員（230名）を確保する。
- ② 学生満足度を上げ学校評価を高める。
- ③ 進路確定率95%以上を達成する。
- ④ 働き方の改善を進める。
- ⑤ 同窓会の活性化。

## 3. 評価項目の達成及び取組状況 の確認 別紙参照

評価方法： 4（適切）→ 3（ほぼ適切）→ 2（やや不適切）→ 1（不適切）

※自己評価の平均は、小数点第2位を四捨五入する。

### （1）教育理念・目標

評価欄

1-1	教育理念並びに教育目標が明確に示されているか	4
1-2	学校における職業教育の特色が明確に示されているか	4
1-3	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
1-4	理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
1-5	各学科の教育目標、育成人材像は、業界のニーズに向けて方向づけられているか	4
<b>学校自己評価 平均</b>		<b>4</b>

#### 成果と課題

- ①教育理念並びに教育目標は、ホームページ学校概要に明示している。学生便覧に記載してある教育目的については、入学後オリエンテーション時に担任教員より説明している。学生便覧には、学則の目的が記載してある。来年度からは、学生便覧学生の皆さんへ（校長挨拶）の下に教育理念・教育目標を掲載する。
- ②各科の職業教育の特色(技術・資格・作品・就職・キャリア教育)は、学校案内、パンフレット、ホームページ等に明確に示されている。
- ③第3次中期計画にて目的とした、「入りたいと言われる学校・卒業してよかったと言われる学校」になるために昨年度は、3月学校運営検討会でPDCAサイクル（PDCA cycle、plan-do-check-act cycle：Plan（計画）→ Do（実行）→ Check（評価）→ Act（改善））を実施している。
- ④理念、教育目標、育成人材、特色については、入学前の学校説明会・オープンキャンパス、入学後のオリエンテーションやフレッシュマンセミナーで生徒に周知している。保護者に向けた教育目標等の周

<p>知については、毎年5月に開催される後援会総会において、説明を行っている。しかし、後援会総会に出席されていない保護者に周知されているかは把握できていない。将来構想については、各科ごとに組織されている教育課程編成委員会で助言を頂き、次期中期計画に反映するために検討を重ねている。</p> <p>⑤教育課程編成委員会や企業連携を通して業界のニーズを把握し授業に取り入れている。</p>
<p><u>今後の改善方策</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育理念並びに教育目標を学生・保護者等多くの方々に周知する為、学生便覧には、学則に記載してある。学則には教育目的が記載してあるが、来年度からは教育理念・教育目標を追加記載する。</li> <li>・次期カリキュラム改正に向けて、企業連携を充実させ、教育課程編成委員会を通じて、社会ニーズを取り入れた新たな教育課程を検討する。</li> </ul>
<p><u>学校関係者 評価コメント</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・業界のニーズを把握して授業に取り入れることは良いと思う。</li> <li>・きちんと示されており、活今後の改善方策についてもしっかり考えられている。</li> <li>・教育理念・目標hあわかりやすく提示されていると思う。</li> <li>・PDCAを確実に実施することによって教育理念・目標がさらに具体的に理解できると思います。</li> <li>・社会のニーズも変化しています。今後の追記記載や新たな教育課程の検討に期待しています。</li> </ul>

**学校関係者評価平均** 4.0

## (2) 教育活動

2-1	シラバスが作成され学生に配布されているか	4
2-2	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
2-3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
2-4	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
2-5	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
2-6	授業評価の実施・評価体制はあるか	4
2-7	成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
2-8	資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
2-9	人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	3
2-10	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
2-11	関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
2-12	目標に到達しない学生に対し適切なフォローがなされているか	4
<b>学校自己評価 平均</b>		<b>3.8</b>

### 成果と課題

①シラバスの作成に関しては、全科目のシラバスを前年度中にPDCAサイクルを実施し来年度のシラバスとして作成している。また、学生への配布は、各教科担当より配布し、科目の目的・内容・評価方法等説明をしている。

- ②学習時間や到達レベルは、学生便覧によって明確になっている。また、業界ニーズに応えるために、職業実践専門課程編成委員会を年2回行っている。
- ③現状カリキュラムに関してはロードマップ作成により体系的に編成している。
- ④平成28年度からキャリア教育に力を入れており、新入生にはフレッシュマンセミナー、各学年毎にキャリアディベロップメント・就活ゼミ等のキャリア教育を重視した科目を実施している。  
また、各科目の中でアクティブラーニングを取り入れている。また、企業連携強化に努めている。
- ⑤産学連携による職業教育では、ビジネス系学科・保育製菓系学科はインターンシップが授業科目として実施されている。IT系学科・クリエイト系は企業からの講師等による実技講座に取り組み、学科によっては、企業と合同で教材開発をしている。しかし、全体的にインターンシップに関しては学科によって難しい面がある。
- ⑥前期と後期に学校アンケート、授業アンケートを実施して、学生達の意見を基に各教員は、PDCAサイクルを実施し今後の取り組みに活かしている。非常勤講師については、4月1日の講師懇談会にて授業アンケート結果を配布し、授業内容を振り返り改善をお願いしている。
- ⑦成績評価の基準は教務規程で定められており、基準としては明確になっている。各授業科目の到達レベル、評価方法についてはシラバスに記載されている。
- ⑧資格の取得については、ロードマップにより体系的に位置づけ、受験に合わせた指導体制のもと授業運営をしている。
- ⑨職業実践専門課程認定申請・教育課程編成委員会を通じて、企業講師等が充実され、専門性の高い教員の確保は充実されてきている。また、大学等における就学支援に関する法律第7条第1項の確認に関わる申請書に「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表を明示している。
- ⑩教員の資質向上、指導力向上に関しては、研修計画を作成し、各学科で資質向上のための外部研修へ参加している。また指導力向上については法人内の合同研修により実施された。
- ⑪教育課程編成委員である業界団体・企業との連携により現行カリキュラムの指摘を受け前向きに見直し検討を行なっている。また、このような指摘事項を基にカリキュラム改正時に役立てている。
- ⑫習熟度に乏しい学生については、系毎、学科毎に対応している。習熟度の乏しい学生については、理由が多様化しており、その対応の仕方も様々である。現在、補習の他に学生支援部にて、習熟度の乏しい学生から日常悩みのある学生に対して相談室(オアシスルーム)を設けて学生の不安を緩和している。また、オアシスランチを実施し、相談しやすい環境を作っている。

#### 今後の改善方策

- ・教育活動全般に関しては、教育課程編成委員会等の意見と企業連携により見直しを行い強化している。専門科目だけでなくキャリア教育を更に強化する。
- ・令和2年度には高度ITビジネス科の申請を行う為、企業連携、教育課程編成委員会の実施等、漏れのない準備を行ないより専門性の高い授業展開を行っている。
- ・令和2年度の新カリキュラム(コンピュータ科、医療事務科、ビジネス科、公務員科、製菓・製パン科)に向けて準備を行った。
- ・専門性の高い教員を確保するのは、非常に難しい。(特に高度ITビジネス科)知識・経験はさることながら年齢も条件に入れると更に困難である。しかし、教員については妥協できないので、引き続き専門性の高い教員の確保に努めていく。
- ・教員の資質向上のために、先端的な知識・技術等を修得するための研修に参加する。

<ul style="list-style-type: none"> <li>・学生支援については、5名の教職員が担当しており、新規に担当する教員については、カウンセラーの研修を受け、悩んでいる学生との接し方、傾聴力、指導法の勉強会を実施している。今後は、他の教職員も関心を持ち学生に対して円滑に対応するように努める。</li> <li>・「学力多様化への対応」として、平成29年度から学生支援と言う新しい分掌を設け学生支援に力を入れ実施してきた。今後は、PDCAを実施し他の教職員も巻き込み学生支援をより充実させる。</li> </ul>	
<p><u>学校関係者 評価コメント</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生の能力差は出てくると思いますが、目標に到達しない学生に対するフォローは大切です。</li> <li>・2-10については専門学校であるので、引き続き先端的な知識・技術に対応できる取り組みをしていって欲しい。</li> <li>・質の高い教育にするために教育人材確保は大変だと思います。</li> <li>・全体的に、学生のことを第一に考えた教育活動に取り組まれていると感じた。成績の評価についてはシラバスに記載されておりましたが、授業の目的・目標に対して曖昧な印象を受けました。</li> </ul>	
<b>学校関係者評価平均</b>	<b>4.0</b>

**(3) 教育成果**

3-1	就職率の向上が図られているか	4
3-2	資格取得率の向上が図られているか	4
3-3	退学率の低減が図られているか	3
3-4	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
<b>学校自己評価 平均</b>		<b>3.7</b>

成果と課題

①就職率に関しては、殆どの学科が就職内定率を向上させることができた。一方、全体的には学生本人の希望と求人企業をマッチングさせた具体的な就職指導を行ってきた結果、就職内定率 100%を達成した学科が平成30年度は9学科中6学科であったが、令和元年度は5学科であった。就職内定率は、平成28年度 98.0% ⇒ 平成29年度 98.7% ⇒ 平成30年度 99.5% ⇒ 令和元年度 97.3%、となり就職内定率が下降している。

②資格取得率の向上に関しては向上した学科もあるが、横ばい若しくは目標を達成できていない状況である学科もある。また、上位資格への取得が進んでいる学科もあり、一定の成果を得たと認識された。

③退学率の低減に関しては、学校全体として平成28年度 6.2% ⇒ 平成29年度 3.5% ⇒ 平成30年度 4.5% ⇒ 令和元年度 4.7%となり昨年と比較し退学率が増加した。

④在校生については、ボランティア活動、イベントを通じて一定の社会評価を頂けているが、卒業生の社会的評価に関しては、活躍・評価を得ている事実を確認することはできなかった。

今後の改善方策

- ・教育成果として、就職、資格取得については、それぞれ学生指導を充実させ、目標達成に近い成果を得ることができたが、習熟度の乏しい学生に対しての益々多様化しているので学生に合った指導法を検討する。
- ・就職内定率の更なる向上に向け、早期から学生への意識付けと、粘り強く就職活動を行うよう指導するとともに、専門分野就職率向上に向けて専門分野への興味、関心を高めていくための取り組みが必要。
- ・退学者の減少に向けては、平成29年度から学生支援という分掌を設置し、悩みのある学生や不安に思っている学生に対して、担任と一緒に指導を重ね、退学者を更に減少させたい。
- ・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握するため、同窓会組織を中心とした卒業生との連

<p>携強化を図るための体制を整備する。</p>
<p><u>学校関係者 評価コメント</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲーム科に関してはゲーム会社に就職する学生は少ないようですが、システム会社への転換は良いと思います。</li> <li>・同窓会組織が活性化されれば、卒業生の社会的評価の把握や、卒業生への支援体制の構築になるのではないかと。</li> <li>・卒業生の活動を把握できる制度がしっかりしていると良いと思います。</li> <li>・社会情勢と共に学生の質も変化している。退学者は減に努めて自分がこの学校に入れば、将来が見え夢と希望がかなえるように思ってもらえるような教育が必要ですね。</li> <li>・退学者については日本の社会全体の課題であってとても難しい問題かと思いますが、今後も様々なアプローチから改善策を試みていただきたいです。</li> </ul>

**学校関係者評価平均** 3.7

**(4) 学生支援**

4-1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
4-2	学生相談に関する体制は整備されているか	4
4-3	学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
4-4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
4-5	保護者と適切に連携しているか	4
4-6	卒業生への支援体制はあるか	3
4-7	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4
4-8	新たな求人開拓の努力はしているか	4
4-9	課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
4-10	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
<b>学校自己評価 平均</b>		<b>3.8</b>

<p><u>成果と課題</u></p> <p>①学生の進路指導に関しては、就職担当を中心に担任教員、学科教員等全教職員で指導に当たり、十分な体制で当たった結果、平成30年度は、就職内定率は99.5%、専門分野内定率は84.5%、令和元年度は、就職内定率は97.3%、専門分野内定率は80.3%となった。</p> <p>新たな求人の開拓も企業連携教育と併せて広げている。</p> <p>就職相談室があるが、部屋が狭すぎる為、学生が相談するスペースが狭く3密の状態である。</p> <p>②悩んでいる学生・不安に感じている学生に対して、学生支援(分掌)として週1回オアシスルームを実施している。また、学生が悩みを話しやすくするため月2回オアシスランチを実施している。メンタルヘルスに関しては専属スクールカウンセラーによるカウンセリングを週1回(最大2名)実施しているほか、必要の都度、随時カウンセリングが行われており、学生の心的な支援となっている。</p> <p>③学生の経済的側面に対する支援体制では、日本学生支援機構奨学金と法人独自の学費サポートプランにより整備されている。また、高等教育の修学支援新制度の対象機関となっている。</p> <p>④学生の健康管理に関しては、校内に「健康診断担当」を置き、健康診断結果を受けて、要精査の必要のある学生に担任教員と協力して、診察、治療等を促している。また、本校はクラス担任制</p>
---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

を敷いており、学生の出欠状況や健康管理上で問題となりそうな場合には、校内の系長や教務課長と相談のうえ、担任から保護者に連絡を取り連携を取る体制を取っている。また、職員室内に保健室があり、ベッドが2つ用意されている。

- ⑤成績や出欠席があまり好ましくない学生については、保護者に電話連絡を行うが必要に応じて保護者面談を行う。また、就職活動に置いて必要があれば保護者との面談を実施する。これにより、学生の休学・退学を防止し、就職活動においても積極的に活動している。
- ⑥卒業生への支援としては卒業直後の未就職者への支援を行っているが、卒業生全般への支援体制は十分とは言えない。相談に来校する卒業生については、その都度対応している。
- ⑦高校との連携教育は、姉妹校との高・専一貫教育や高校との連携授業、近隣高校に対して分野ごとの進路講座等により、高校生の職業選択等、進路指導上の支援を行っている。
- ⑧就職担当者が優良企業を始め専門性の高い企業に対して訪問し学科の説明を行っている。また、新規の求人開拓に対しては徐々に新規企業数を増やしている。
- ⑨ボランティア・イベント・展示・コンテスト等の課外活動について、費用が発生する場合は、学生負担でなく、学校もしくは後援会が負担する。
- ⑩充実した施設や実習室により社会人教育へのハード的な環境は整備されているが、社会人を対象としたコース設定などの教育プログラムは今後の課題である。

今後の改善方策

- ・同窓会組織を中心とした卒業生との連携強化を図るための体制を整備する。
- ・卒業生に対して、SNS等を利用して、支援体制を強化したい。
- ・積極的に企業訪問し、新規求人開拓を行う。
- ・社会人に向けた教育プログラムを開発するためのニーズ等を現在、調査・検討中である。

学校関係者 評価コメント

- ・担任制をとっている点は非常に良いと思う。
- ・就職内定率がやや落ちている点が気になります。
- ・学生にとって先生は絶対的だと思っています。どれだけ学生と関わるかが大切ですね。学生の少しの変化を見逃さず、声かけ等ができるとういことです。カウンセリング等をもっと実施して欲しいと思います。
- ・学生一人一人の将来を考えたきめ細やかな学生支援をされていると思います。社会人、地域社会との接点も、今後さらに増えていくことを期待しています。

学校関係者評価平均

3.9

**(5) 教育環境**

5-1	講義室、実習室の管理は適切に行われているか	4
5-2	実習室及び講義室は学生の自習室として開放しているか。	4
5-3	教育用機器備品は整備されており活用されているか	4
5-4	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
5-5	防災に対する体制は整備されているか	4
5-6	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
学校自己評価 平均		3.8

### 成果と課題

- ①施設・設備の管理は、普通教室はクラス担任、実習室には管理担当を置き、施設管理はもとより、設備の状況を常に管理する体制を敷いている。
- ②施設（教室・実習室等）に対して、学生への開放も含めた充実した利用に努めた。  
また、利用ルールを定め、学生の自習等への開放を行っている。学生が自習で使用した記録が残っていないため、使用記録簿が必要である。
- ③IT実習室のパソコンが古いためソフトによってはレスポンスタイムがながい。パソコンの調査をして令和2年度にリプレースする。
- ④学生の増加に伴い、教室に余裕がない。一部定員を超えて使用している教室がある。
- ⑤防災への対応は、毎年作成されている消防計画及び防災訓練により、体制整備し災害等の発生時に備えている。また、各部屋の火元責任者については自主検査（火気関係）を月に4回、自主検査（閉鎖障害等）を月に2回行い、自主検査チェック表を月末に提出する。
- ⑥インターンシップでは、実習の事前準備、事後指導を行なっている。海外研修では、説明会を実施し、保護者の同意書を提出していただいている。

### 今後の改善方策

- ・IT実習室のパソコンを令和2年度にリプレースを行う。
- ・防災意識を高める為、防災訓練とともに、防災教育を継続実施する。
- ・学生の増加に伴い、今後教室・実習室の整備が必要である。
- ・実習室等を使用する場合は、使用記録簿を用意し使用状況を記録する。

### 学校関係者 評価コメント

- ・PCに関しては快適性が大事ですので、常にパフォーマンスが高いPCを導入しているほうが良いと思います。
- ・新しい学校（校舎）が、綺麗に丁寧に使われていると感じる。
- ・まだ新しいだけに素晴らしいです。設備に甘えないようにしてください。
- ・設備の充実はきちんとしていったほうが学生入学にも影響を及ぼしますのでやっていただきたいと思います。
- ・学生増加にともない教育環境の整備は大変科と思いますが、防災やIT環境への配慮もされており、全体的にはしっかり対応されていると思います。

学校関係者評価平均

4.0

### (6) 学生の募集と受け入れ

6-1	入学案内には志願者が必要とする情報が掲載されているか	4
6-2	募集要項の内容は適切か	4
6-3	学生募集活動は、適正に行われているか	4
6-4	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
6-5	学納金は妥当なものとなっているか	4
学校自己評価 平均		4

### 成果と課題

- ①入学案内・募集要項は、毎年更新され、志願者に必要な情報を提供している。
- ②学校説明会では、入試内容、納付金等必要な内容は説明している。毎年、適切な内容に更新され掲載している。

<p>③志願者への情報は、毎年見直し更新されている学校案内・募集要項ならびにホームページ等で提供されている。</p> <p>④学生募集活動は公正に行われており、適正である。教育成果については、学校説明会、オープンキャンパス、新聞、ホームページ等で資格取得状況、コンテスト入賞の状況、就職の状況などの情報を公表している。</p> <p>⑤学納金は、法人グループ校全体で収支等を勘案し適切に設定している。平成29年度に改定している。</p>
<p><u>今後の改善方策</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ホームページやSNSを活用を見直し、よりの確な情報をタイムリーに発信する。</li> </ul>
<p><u>学校関係者 評価コメント</u></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・費用が明確化されているのは良いと思います。</li> <li>・学生募集については、SNSの活用をより創意工夫してみてもどうか。</li> <li>・入学案内、募集要項などは充実していると思います。</li> <li>・ビジネス学校は学生たちに評判はとても良いです。</li> <li>・校名およびその内容が、年々地域に浸透している印象があります。様々な活動の成果が実っているのではないのでしょうか</li> </ul>

学校関係者評価平均

4.0

#### (7) 教職員組織、学校運営・管理、財務、法令等の遵守

7-1	教職員の能力、業務内容の評価を定期的実施しているか	4
7-2	組織間、各部署間の連携は適切に図られているか	4
7-3	非常時の危機対策管理に対する周知は徹底されているか	4
7-4	消防計画、学校安全計画は適切に整備し、防災訓練等は実施されているか	4
7-5	目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
7-6	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4
7-7	運営組織や意志決定機能は、規則等で明確化されているか、有効に機能しているか	4
7-8	人事、給与に関する制度は整備されているか	4
7-9	教務・財務等の組織整備など意識決定システムは整備されているか	4
7-10	教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
7-11	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4
7-12	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
7-13	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
7-14	財務について会計監査が適正に行われているか	4
7-15	財務情報公開の体制整備はできているか	4
7-16	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
7-17	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
7-18	自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
7-19	自己評価結果を公開しているか	4

7-20	ハラスメントに対する防止対応策が整備されているか	4
学校自己評価 平均		4
<p><u>成果と課題</u></p> <p>学校運営、学校経営に関する諸制度、諸施策は、法人で整備されている制度の下、学校としての運用も十分に行ってきており、リスク管理、コンプライアンスの面からも適正に運営がなされていると言える。</p> <p>各項目の詳細は以下の通り。</p> <p>①教職員の人事制度については、法人で制度化されており、職員服務規程、給与規程、資格制度運用規程、人事評価規程で規定されており、教職員の評価に関しては、目標管理制度が運用されている。</p> <p>②学校間の連携は、所属長会議、校長ミーティング、3つの分科会(進路、教育、募集)が中心となり連携が持たれ、コンピュータ系・ゲーム系の分野別検討会、4年生学科・デザイン系・医療系・保育系の情報交換会を実施し、各学校間の連携を図った。学内については、学校運営検討会、職員会議、系会議、教務会議、運営会議で職員間の連携が行われている。</p> <p>③非常時の危機管理については、法人全体での危機管理規程に規定されている他、ANPICシステムを使用して安否情報管理が行われている。</p> <p>④学校では消防計画に則り、年に1回、避難経路の確認、防災総合訓練を実施しており、学生、教職員の危機意識醸成を図っている。</p> <p>⑤年度初めに学校長より運営方針が示される。学校長の実施計画シートを基本として目的・目標を立てている。</p> <p>⑥理事長の予算編成方針、中期計画に沿った運営方針に基づき事業計画を策定している。</p> <p>⑦組織運営については、学校内では職員会議、運営会議、教務会議の他、各種委員会等で審議され、校長の意思決定を支援している。また、運営方針については理事長方針、専門学校担当理事方針により、校長からの学校経営計画書に基づいた事業計画が策定、実施されている。</p> <p>⑧人事、給与等の規程が整備されている。法人内システムで確認できる。</p> <p>⑨教務については、教務規定に基づき教育計画の策定を実施している。財務計画並びに監査等については、中期計画により、単年度の事業計画を策定し、収支を勘案した予算が編成されており、法人内の予算ヒアリングを経て、理事会・評議員会の承認を得ている。</p> <p>また、監査に関しては、公認会計士の監査が2年ごと、監事の監査が半期ごとに実施されている。このようなプロセスを経た財務諸表に関しては毎年法人ホームページで公表されている。</p> <p>⑩ホームページ、学校案内、SNSに教育活動や成果を掲載し公開している。</p> <p>⑪情報システムに関しては、学務、会計、人事等の基幹システムが法人全体で構築されており、情報セキュリティについては、情報セキュリティ基本方針に基づき管理・運用されている。</p> <p>⑫法人本部のホームページで収支報告が公開されている。現在、総定員数570名、学生総数676名であり財務基盤は安定している。</p> <p>⑬次年度の事業計画を策定し、収支を勘案した予算が編成されており、法人内の予算ヒアリングを経て、理事会・評議員会の承認を得ており妥当である。</p> <p>⑭会計監査については、法人に対して年1回、各所属に対して2年に1回実施している。監事監査については、年2回実施している。</p> <p>⑮法人のホームページに、財務情報については公開している。</p>		

- ⑯専修学校設置基準に遵守し適正な運営を行っているが、入学定員の超過がある。大幅に超過がある学科については、定員増の改正を行った。
- ⑰個人情報の取り扱いについては、学生便覧に明記されている。また、広報活動に用いられる写真、個人名等については、個別で承諾を取っている。
- ⑱自己評価については、毎年度当初に自己評価委員会により実施されており、学校全体として取り組むべき事項や各科で対応すべき事項などを共有するとともに、重点化を図っている。
- ⑲関係者評価委員会を5月下旬までに実施し、6月中にはホームページへの公開を行っている。
- ⑳学内にハラスメント委員会を設け学生、教職員からのハラスメント投稿BOXを設置し受けとれる仕組みを設け、防止を図っている。

今後の改善方策

- ・入学定員超過が大幅に目立つコンピュータ科については定員を20名から40名に改正を行った。その他、多少超過がある学科については、検討し改善を目指す。
- ・個人情報保護の法令の趣旨に基づいた個人情報の取得、承諾、管理を徹底する。平成2年度は、年度当初に全学生に対して個人情報に関する同意書を配布し同意を取った。

学校関係者 評価コメント

- ・ハラスメントの防止策は大事です。
- ・静岡理工科大学グループとしての評価になるのではないかと（沼津情報・ビジネス専門学校としての範疇が不明）。
- ・充実しています。
- ・学生の超過に対しては柔軟な対応をしているところは良いと思います。
- ・教職員の皆様の間で方針やルールが共有されていると感じました。情報の発信もわかりやすく構築されているのではないかと思います。

**学校関係者評価平均** 4.0

**(8) 社会貢献・地域貢献、国際交流**

8-1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
8-2	留学生の受入れ・派遣等において適切な手続き等がとられているか	4
8-3	留学生の受入れに対して、学内での適切な体制が整備されているか	4
8-4	地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3
<b>学校自己評価 平均</b>		<b>3.7</b>

成果と課題

- ①令和元年度は、東部地区高校ワープロ競技大会、こいのぼりフェスティバル、子育てサロン、実習施設を利用した講座（映像作成）等へ施設を貸出した他、近隣住民の避難施設として開放している。今後、従前に増して地域住民の利用を促進し、地域との連携を充実させていく計画を検討している。
- ②令和元年度は、国際ビジネス科を設置し、20名の留学が入学した。留学生について、適切な事務手続きを行い、担任による生活指導を行った。
- ③学内には留学生担当を配置し制度上の理解に向けて留学生並びに教員に個別の対応をしている。
- ④本校主催の公開講座や、地域企業の新入社員を対象とした講座を実施した。また、講座の開催を始め、仲見世商店街の活性化を熟考し地域との連携を行った。その他に、鎧塚氏を招き、近隣の高

校の生徒を招待し、鎧塚氏の講話とケーキの試食を行った。

#### 今後の改善方策

- ・地域連携、国際交流に関しては、地域への学校施設の開放という形での地域連携は行われているものの、受動的な部分もあり積極的に学校が社会と関わる活動を進めていく。
- ・地域連携を更に強化すべく、本校主催の公開講座や施設開放を進めるとともに、地域住民、企業、団体等とタイアップしたイベント、プロジェクトを推進できるよう引き続き体制を整備する。
- ・公開講座では、全ての学科で実施しているわけではない。学科の特徴を活かした地域に対する公開講座・教育訓練を検討する。

#### 学校関係者 評価コメント

- ・夜間の学生を取り入れたらどうでしょう。
- ・今後も地域に積極的に開かれた学校であってほしい。
- ・製菓・製パン科以外の活動が地域からは見えにくいです。
- ・地域密着型を大いに広めて欲しい。グローバルな時代にあった受け入れはとても良いと思います。
- ・様々な可能性のある学校ですので、今後の活動にも期待しております。新型コロナの影響で今後は留学生の受け入れや交流活動も難しい面があるかとおもいますが、工夫をして地域を活性化していただきたいです。

学校関係者評価平均

3.8